同窓会報

第9号
昭和50年5月1日
社団法人
上田高等学校同窓会

印刷所
田辺印刷株式会社

# 運動場敷地は変更

## 市営野球場の西側

予て母校グランド拡充については、昨春以来県並に市開発公社により本格的に、市内常磐城三丁目（諏訪部地籍）に確保すべく、交渉に努めたが、この間県道並に古舟橋の新設開通に伴い経済情勢の急速なる進展により地元関係自治会の全面的な協力が得られず、且つ、予定地中心部所有者数名の強い反対と、買収単価についても、仲々折り合いが得られない現状ま、難航するに至った。

このため、秋以来余儀なく計画を次のとおり変更するに至った。

新予定の計画地は、市公園内野球場の西にあたる常磐城一丁目（旧馬場の跡地）に、南北に長方形の窪地の畑作地九、五〇六平方米（地主30人～41筆）と、この地内の農道又は、水路敷等七四九平方米（地主3人～8筆）合計一〇、二五五平方米取得を、市開発公社を挙げて精力的に交渉を進めており本年四月中に買収契約の見通しもついてきた。

この地は、学校から至近の処にあり教育上効果的に使用が期待され、将来とも比較的交通上安全の場所と学校側では確保を、強く希望しているので、同窓会、PTAと長野県開発公社が購入促進に努力している。

## 同窓会長野支部発足

長野市に居住、又は通勤する同窓会員が四百名にもなるので同窓会支部を設立する気運が高まり、昭和五十年三月十五日午後一時より長野市ニューナガノに於いて設立準備会を開催した。

当日会長に橋詰英雄（22回）、幹事長に河合久午（35回）、幹事に西沢弥八（39回）、田中洋三（44回）、保科国泰（44回）、竹下悦雄（52回）を選任した。

# 昭和四十九年度事業

## 学区制度に関する講演会

昭和五十年六月七日（土）に開催される五十年度総会に於いて報告される、昭和四十九年度の事業報告は次のようである。

1、社団法人上田高等学校同窓会昭和四十九年度総会は昭和四十九年五月二十六日開催され、東京都高石山高校長鈴木貞三氏による「学区制度の体験の講演を行った。当日は懇親会に併せて、勲五等旭日章を受章された百瀬豊吉（第18回）、勲三等瑞宝章を受章された小泉亮一郎氏（第20回）、勲四等瑞宝章を受章された近藤貞氏（第21回）、勲二等旭日重光章を受章された松平忠久氏（第21回）、勲五等双光旭日章を受章された吉池勘右衛門氏（第21回）の受章祝賀会を行った。

2、本年は理事会が四回開催された。

3、奨学金として中村郁文に月額五〇〇〇円を貸与した。

4、昭和四十九年六月二十九日東京、農林会館で開催された第13回関東支部大会に柳沢理事長、竹内敬太郎理事が出席し、開催を援助した。

5、昭和五十年三月二十日開催された幹事会に於いて柳沢理事長より第二グランドの敷地を職業訓練所の南側の旧馬場の地籍に変更し購入を長野県開発公社に依頼した報告があった。また同窓会五十周年記念祝賀会は幹事会に準備委員会を作ることを議決した。

6、長野県高等学校同窓会連合会（会長柳沢文秋氏）総会を昭和四十九年五月二十六日に開催した。

7、上田高等学校転退職職員に記念品を贈呈した。

# 同窓会創立五十周年

## 記念祝賀会は六月七日

本年は同窓会創立五十周年に当るので六月七日午後二時より同窓会館で祝賀会を開催する。

当日は午後二時より同窓会総会を開催するが、総会は簡略化し、二時半より祝賀会を開催する。

祝賀会は永年同窓会役員を努め四十九年退職された宮坂陽（5回）、峰村国一（8回）の両氏を始め功労者の表彰と昨年秋及び本年五月受章された同窓会員の祝賀を行ない、来賓の祝辞の後、祝賀宴に入る。このために幹事会に於いて選任された準備委員が各期から余興をお願いする予定である。

会費は一千円で、五月三十日迄に参加申込みを受けつける。

電話上田局2 3146同窓会館宛

# 維持会員に応募を願う

## 同窓会館維持のため

昭和四十九年度の同窓会の歳入は三百五十五万七千五百六十二円で、基本財産収入と運用財産収入が七万六千四百五十九円で、同窓会入会金（新入学生負担）八十二万円、会館使用者による会館維持負担金が百七万九千百五十円、雑収入二十二万六千七百七十九円、繰越金四十五万七千六百七十四円であるが、其の残りの八十九万七千五百円は維持会員の会費である。維持会員費は四十八年度は五十八万二千五百円であったが、本年は三十一万五千円の増加をみたので、同窓会は赤字なしの決算が出来た。

維持会費は故勝俣稔先生が同窓会館維持のため、同窓会員に一人年額五百円を拠金して戴くのであるが、五年前より東洋信託銀行と契約し、一口一万円の投資信託を購入して戴くと、五年間毎年利子の中より五百円が同窓会に会費として送金され、五年後一万円と利子の残余が御手元に届く制度であり、本年は第一回の応募者に返金される年である。引続き投資信託を御購入を願いたい。又維持会費は一口五百円であるが、二口以上の御負担をお願いする。人件費の高騰で同窓会は運営に苦慮しているが、この会費がなければ破産せざるを得ない。

# 新役員名簿

昭和四十九年五月二十六日総会で役員改選が行われ、役員の互選により次の様に理事長、副理事長を決定した。

理事長　柳沢文秋（二十七回）
副理事長　笠原正己（二十四回）
〃　鈴木　俊（二十七回）
理　事
塩沢隆平（十四　回）
遠藤恭介（二十　回）
竹内敬太郎（二九回）
母袋忠右衛門（三二）
柳沢理一郎（三三回）
半田孝淳（三十四回）
高山　薫（三十六回）
小林軍治（三十七回）
金子八郎（三十九回）
甲田英久（四十一回）
沓掛信敏（四十二回）
水野春海（四十二回）
河合　清（四十四回）
小笠原光二（五十一）
佐藤圭司（五十四回）
柴崎章雄（二十六回）
浜村謙一郎（三十五）
伊藤伝兵衛（四十八）
監　事

真田幸村 上田紬 製造販売元
有限会社 藤本
長野県上田市常田2丁目27の17
〒386電話上田(02682)②0900
佐藤圭司（第54期）　佐藤光生（第56期）

ナショナル住宅設備機器 専門店
総合燃料燃焼器具
株式会社 千野商店
千野完吾（第44回卒）
上田市中央6丁目15～8 TEL(2)0737

# 同窓会創立五十周年

同窓会理事長　柳沢文秋

上田高等学校同窓会が設立総会を開催したのは大正十五年九月一日であった。従って本年は同窓会創立五十周年である。この五十年の同窓会の歴史は昭和三十五年に発行した同窓会員名簿に小泉清美先生が、昭和四十五年に発行した同窓会員名簿に高柳先生が分担し執筆されたところである。本会は発足時上田中学新入生徒より金壱円を同窓会費として徴集したが、現在は入学生の同窓会費は二千円になっている。発足時の同窓会の一年の収入は七百円位であるが、二千倍するに百四十万円である。現在の同窓会は一年の収入が三百五十五万円であり、新入生の拠出金は八十七万円であるから、残余の収入は会館の使用料金と、同窓会維持会員の募集をしなければやっていかれない。この増額の原因は同窓会が社団法人の認可を得たことと同窓会館を維持しなければならない事に依る。

高等学校同窓会で文部大臣認可の社団法人の認可を得た同窓会は類例がなく、また堂堂たる同窓会館を所有している同窓会は少ないので、この誇りを大切にしたいと思う。それで本年同窓会創立五十周年の記念祝典を六月七日総会の日に行なうので、多数の会員諸氏の御参加を願い、賑かに一時を過したいと計画を建てている。

## ◇受章の祝賀会◇

柳沢文秋理事長は昨年十月多年診療に努めるとともに医師会等の役員として保健衛生の向上に寄与し公衆の利益を興した功績により藍綬褒章を受賞し、又上田高校校医として学校保健の普及と向上に尽力し多大の成果をあげたことにより文部大臣表彰を受けられた。昭和五十年二月二十六日同窓会役員上田高校職員代表と同校PTAは祝賀会を公園富貴で開催した。

## 卒業五十年記念の前年祭

＝第二十六期生同級会＝

昨年四十八年目の集いに三十名集る。尚お盆には東京で十五名参集して気勢を挙ぐ等年と共に盛んになり、今年は四十名突破す。一昨年は別所で五十名集る。これは生存者百名中半数が集ったから、一寸他に比をみない親和だ。来年の五十年記念祭には生存者の半数を越えて七十名（七〇%）を突破しようと今から計画している。我会はどうしてこんなに集るのか。それは平常の心がけがよいということにつきる。懐えば昔在学中、恩師であり先輩の林義一先生が、いみじくも我々に語ったことがある。それは「君らよくきけ！中学時代の友は、老いてから必ず君等の心身に青春の血を涌きおこす最上の泉となるだろう」と。自己紹介の時、昔のニックネームが出る途端、我々を五十年の昔に逆流させてしまう。級友に〝悠長〟という君がいる。彼は今でも出席回答のはがきに住所氏名を書き忘れている。生涯をかけたこの徹底さは羨やましい次第である。

今年も一月二十六日、上山田の千曲館で開催。四十名参会、関東軍はいつも熱烈で十名。それに越後から一名。殊にうれしいのは、新顔が年々六名程増えてゆく。会する者の殆んどが宿泊して深更迄語る。〝何度きいても目が潤む〟という歌があるが、事実同級生の話は、毎年同じ話題を語っても、益々新鮮味が加わるから不思議だ。今年は往年の応援団長が来たので、一段と応援歌が爆唱した。ある君は「わが一年の最良の一日だ」と吐露している。

来年五十年記念祭は左の決定。(1)上山田温泉「千曲館」(2)昭和五十一年四月二十六日（月）(3)当番は地元の下り汽車通(4)夫人同伴歓迎(5)母校への記念物はその時協議す。

尚、母校の校舎の荒廃を慨嘆し全く廃墟そのまゝだと拳を叩く。友あり遠方より来る亦楽しからずや。の語をしみじみと実感をもって過した一日である。（長尾記）

（出席者左の如し）

石井公男、坂田隆雄、田口喜一郎
小山正徳　宮崎久登　市村志真衛
上田政男　倉島直喜　松岡　茂
滝沢　伝　大塚忠雄　松井仁夫
坂下清衛　宮原英二　山崎菅衛
水科　和　山本太郎　大井直次郎
馬場義人　山崎通雄　中村徳太郎
大石清治　福井清作　長尾秀次
小林邦人　柴崎章雄　倉沢周平
竹内文夫　宮本昌嘉　柳田健次郎
吾妻良秋　佐藤弘一　小木曽速水
松浦八郎　峰村　一

## 変らざるご支援を

学校長　柳沢恒夫

同窓会員の皆さまには、それぞれお元気にてご活躍のことと存じます。母校のことにつきましては平素から物心両面において、多大のご支援ご協力をいただいており、心から感謝申し上げます。

学校は四十九年度のすべての行事を終え、本校の長い歴史に更に一年を加えました。四十九年度はこの歴史においても、前進した年であったと思っております。生徒達は、真剣に学校生活に取り組みました。学習活動にクラブ活動その他に意欲的であったと思います。その結果、昨年夏の高校総体では、県下一の七十名近い生徒がはるばる北九州に出かけて活躍し、特にハンドボールはベストエイトに入りました。このため、出場のための費用が不足し、会員の皆さまにご協力をお願いしましたところ、目標を越える金が集まり、同窓会のもつよさを、しみじみと味いました。スポーツが盛んなときは、学校の気風も高揚し、他にもよい影響が出ますが、進学の方も、東大十四名、東北大二十三名をはじめ多くの大学で、昨年を上回る好成績をおさめることができました。今年度も学校のすべての面で、学校全体としての盛り上りを、一層高めたいと念じております。

今年度は、これまでの長い懸案でありました校舎改築も、実施の運びになるのではないかと期待しております。改築は大事業でありまして、また会員の皆さまに、いろいろとご援助をお願いすることになるかと存じますが、何卒よろしく願い上げます。改築前にと計画しました第二グランドの方も、土地買収まで話が進んでおります。

同窓会の隆盛は母校の発展につながります。同窓会のご隆盛を祈念いたしますとともに、母校への変らざるご支援をお願いします。

## 獅子会（44回卒）総会開く

＝物故者追悼　法要を兼ねて＝

第四十四回卒業の我々獅子会はこの二月二日、三日の両日にかけて、別所柏屋別荘において、同期生物故者九名の法要を営み、同期生である上田市伊勢山陽泰寺住職小林元亨、上田市房山浄楽寺住職滋野礼一両氏を導師として、今は亡き友人の追悼を行ないました。参加者四十二名、遠路はるばるの友もあり、全員で冥福を祈りました。戦争中の激動のときに共に学び、共に勤労動員に参加し、戦列に加わり、その青春時代を過しながら、戦後になってあるいは病気であるいは事故で死去された友を偲び、読経の流れる中、それぞれになき友と無言の語らいをしました。

物故者は大石昌平君、黒坂孝三君、小山竜男君、林達雄君、土屋太郎君、市村逸郎君、臼玉省三君土屋益一君、藤原（旧山崎）尚道君。

法要後の総会は、いつものことながら盛会をきわめ、とくに三十年このかたの初対面といった友も遠方より来たり、懐旧談に夜のふけるのも忘れ語り合いました。我我の過した上中時代は太平洋戦争のはじめから、終戦の年までであったということから、当時の学校生活に特色が見られ、とくに、勤労動員のことがなつかしく、大きな話題となりました。また、一部の戦争体験者の話。さらに、戦後の学生生活や社会生活の苦しかった話など、つきるところを知らぬといったありさまでした。

最後に校歌を全員で斉唱し、母校の発展を祈り、獅子会の前途に光あれと万才三唱して散会！

株式会社　伊藤商会
上田市中央二丁目八番十一号（TEL④3333）
取締役社長　伊藤伝兵衛（48回卒）
〃　副社長　山極哲次（49回卒）
専務取締役　伊藤健介（57回卒）

緑と、土と、水を守る！
造園
園芸用資材
農薬、農業用資材
環境衛生薬品、機材
工業廃水処理プラント
上水道浄水プラント
株式会社タカハシ
〒386
高橋道彦（第42回卒）
上田市材木町1丁目5番13号　TEL③2135(代)

# 上田高校同窓会 その二

## 「関東支部の現況」報告

この「同窓会報」の前号第八号（四九年四月三十日発行）に、標題と同じ見出しで、関東支部の四十八年度の近況を報告してきた。

今回は（その二）として、昨年中に歩みきた関東支部の大要報告に所感を加え一筆させていただきたいと思う。

一、幹事会兼新年宴会開催

四十九年二月一日、東京農林年金会館でひらく。

そも、我が関東支部の幹事とは大先輩の第十三期生から第六十五期生まで、各期を代表して総員百五十有余名がいる。期毎によって幹事数も異るが、最低二名から六名までが、各期の推せんによってえらばれ、年数回の幹事会が開催されている。四十名以上の幹事が出席、議案に楽しい協議がなされる。先輩、後輩の礼義がこれほど正しく、そして自然に保たれている会合は実に尊く美しい。お互に忙しいので、全員の$\frac{1}{3}$が出席してくれればまあまあというところであろうと思う。

例年二月中に新年会を兼ねて幹事会を開催する。今回は六十八名の出席であった。幹事会は三十分間、あとは宴会の談笑と快気炎に校歌、応援歌、そして凱歌の渦声で終始する。幹事のまずは団結が我が関東支部の結束を強める所以の故もあって、本支部としては、この開催が恒例となってきている。そして幹事諸氏が、この会合を非常な楽しみとしていることは実に嬉しいことである。

昨年度もまた本年五十年の二月十四日の「幹事会兼新年宴会」も盛会であった。

一、会則の一部変更と新役員幹事の紹介。

関東支部役員幹事の任期は、従来三ヶ年であったが、四十九年度から二ヶ年と改正され、四月開催された幹事会において次の如き新役員が選定された。

役員

相談役　(21) 島田　次郎
支部長　(23) 大森　頼雄
副支部長　(28) 坂井　実雄
同　(30) 尾台　三吉
同　(31) 矢島　五郎
幹事長　(36) 神野　勝男
副幹事長　(40) 小林　郷司
同　(44) 柳沢　広
会計幹事　(47) 牧内　操
同　(51) 荒井　信明
同　(58) 林　嘉市
同　(62) 飯島　俊夫
監事　(22) 柳沢　正春
同　(25) 馬場　長市

以上の新役員によって、昭和五十一年三月まで、関東支部が運営されることになった。

一、四月二十二日、「幹事会」開催。

第十三回「関東支部大会」の件について、会次第、会費、及び通知発表と会報「第十一号」発行の件について議す。

一、六月二十五日、「幹事会」開催。

本日より四日後に開催される、第十三回大会の出欠返信内容の報告や、当日の運営について、慎重に諸議案をねる。

一、六月二十九日、（土）第十三回、「関東支部」大会を開催する。

正午より受付、午後一時開会、会場の農林年金会館に続々と老若同窓生が参集した。

本会としては始めて土曜日の午後に開催してみた。来賓として上田の本部より柳沢理事長、柳沢学校長、及び石井新上田市長各位の御出席を得、更に旧師各位、僚友校東京同窓会代表者各位等々、支部会員も二百有余を越え、盛大に開催された。「夕日、千曲の水の面に」青春、再びよみがえり、関東支部の第十三回大会は無事に終了した次第である。全員一斉に凜々しくしめた六文銭の鉢巻は、関東支部大会名物の一景である。

大会の反省、会報第十三号の編集要項を議し、有意義に了る。

一、十二月四日、再び「幹事会」開催。十一月二十日に完成をみた会報第十二号について、評価を加え明年末までに「関東支部名簿」作成の大要など議して、熱心なる討議がなされた。

一、九月二十七日「幹事会」開催、

以上略述の各幹事会の外に編集委員会、または、各期毎の各同期会、そして各運動部OB会等の活潑な関東支部の分派活動と会合が盛会に順次絶えせず開催もされていることを附記し、我が上田高校同窓会、「関東支部」の盛会なることを重ねて強調し、以上、大略御報告にかえる次第である。

（副支部長（31）矢島五郎記）

# 長野支部結成す

長野市在住の同窓会員の間から年々、支部結成の気運が芽生えつつあったが、本部からの要望も加わって一気に結成の選びとなった。

まず本部の手をわずらわして、同窓会名簿から在住者を拾った処四百名を越える多くの在住者があった。早速二〇回生南沢竜氏、二一回生橋詰英雄氏が世話人となって、各卒業期生へ呼びかけ、昭和五十年三月十五日長野市内ホテルニューナガノに於いて結成準備会を開催した。

当日二十数名の士が出席されたが、出席者全員から一日も早く、支部を発足させるようにとの意向が出された。当日の準備会を支部結成会に切り換えて、上田高校同窓会長野支部として発足することになった。

本部からは柳沢会長の代理として竹内敬太郎氏が出席された。取りあえず次の役員が選出され、秋頃に総会開催を目途において、体勢作りを進める事になった。

役員

支部長　橋詰英雄（二一回生）
幹事長　川合文午（三五回生）
幹事　西沢弥八（三九回生）
〃　田中洋三（四四回生）
〃　保科国泰（　同　）
〃　竹下悦雄（五二回生）
会計幹事　木内吉弘（四四回生）

亦出席者より、それぞれ自己紹介がなされ、お互に身近な処に先輩後輩が在住し、勤務していることが判り、昼食をはさみながら歓談が続き、今日の支部形成が今後いろいろの面で有意義なものになる事を慶びあった。

なお近く幹事会を開き、名簿整備などを含めて、事業計画をねる事になっている。

# 卒業三十周年記念

## 四十二回卒業生

四十二回生は卒業三十周年記念事業として、(1)母校に対する記念品の贈呈　(2)恩師および同期生の慰霊祭の二項目を掲げ、昨年春以来、関東支部、長野支部並びに上田本部を主軸に事業推進と協賛募金の運動を展開した。幸いに全国に活躍している同期生一二四名から多大の協賛をいただき、母校には、電気リコピー一台を贈呈し、また恩師および同期生の慰霊祭を、去る十一月二十三日市内下道の香青軒で厳かなうちにも盛大に挙行した。当日の参列者として、ご遺族二十一名、恩師宮坂、中村両先生、導師として村上竜洞院住職ら二名、同期生六十二名が全国各地から馳せ参じてくれた。特に同期の桜の中には九州、大阪から名古屋からと万難を排して駆けつけた三十年振りの懐しい顔々が会場を埋めつくしてくれて本当に感慨一入だった。水野宏が代表して恩師並びに盟友の霊を慰める祭文を読み上げる。母親、奥さん方そして肉親の兄弟から参列した友から、すゝる声、咽ぶ涙の一累の情が式場一杯にただよった。ご遺族としては過去を想い非情なる運命に対する涙だったろうし、同期生としては、亡き盟友を背負ってこれからの人生航路に対する決意の涙でもあったと思われる。

読経の中に続けられる焼香、参列者の祈りと誓いは幽明境を異にするとは云え、亡き恩師、友にも強く感じ取っていただけたと思う。

法要の席は、恩師ご遺族を囲んでなごやかな中に運び、宮坂、中村両恩師のお言葉や、遺族代表の故柳沢宗一君の未亡人波津子さんの謝辞など忘れられぬ慕情として友の胸の中に残ったろうと思う。

いづれにせよ母校卒業以来三十年の再会であり、話ははずみつきることを知らない情景が随所に見られ、限りなき慶びと感激が一堂を覆った三時間余であった。

「三年に一回はこのような会をもとう」と互いに誓い合っての別れは、また名残りつきない寂しさがあった。

記念事業に格段のご協力をいただきた諸兄に対し心からお礼を申し上げ、念願の事業が立派な成果をあげて終結したことを同期生諸兄とともに慶びたいと思う。

この稿の終りに悲報として、小林裕君が去る三月十九日、肺癌のため逝去されたことをお伝えし擱筆する。

（荒木伝久記）

池田今朝次（第44回4卒）
上田市中央2丁目8～20
かつ丼
とんかつ
（有）まんぷく
TEL　本店　本町(4)8100
TEL　支店　本町(2)0441

# 卒業五十周年記念

## 第二十四回期同級会

### 新緑の箱根で開催

上中二十四期生の卒業五十周年記念同級会は、去る六月八日箱根の小涌園で開き、二十八名が出席した。大正十四年卒業当時は、百十一名だったが、すでに五十名も鬼籍に入り、現在六十一名が、元気に各界で活躍している。

この日、信濃路からは十六名が、はせ参じ、同園の貴賓館へ迎えられ、東京勢に合流した。建物は、平家建の和室だが、総檜造りで建築の粋をこらした渋いもの。さらに種類豊富な樹木と巨石を配置した、すばらしい庭園が展望されるといったたたずまい。かつて、藤田観光前社長夫人の別荘だったとか。それかあらぬか、ほのかになまめかしい雰囲気が、そこはかとなく感じられた。

寄せ書きをしたあと、宴会場に移り、まず、物故者の面影を偲びつつ黙禱を捧げ、続いて乾杯、そして全員が近況を報告。宴席には箱根湯本の美形連もはべり『箱根の山は天下の嶮……』の踊りを披露、老生たちは『秋玲龍の空つきて……』の校歌を合唱、また、懐旧談もなかなかつきず、しばし時を忘れた。

その間、笠原君が上田高校舎改築運動と、グラウンド敷地購入の経過を、斉藤君が卒業生の物故者調査など報告。富岡君が蚕の増殖研究について興味ある話題を提供した。

九日は、朝食後貴賓館の庭園で記念撮影をしたあと、再会を約して解散した。一方有志十一名は、三台の自動車に分乗、新緑の声の湖スカイラインを一周、快適なドライブと景観を楽しみ、昔の箱根関所跡や資料館などを見学した。

なお富岡君が話題を提供。八十君は近作の色紙三枚を寄贈、抽選で配布した。

出席者は次の通り。

石井操、石川秀敏、猪飼源太郎、岡田良夫、掛川彦次郎、笠原正巳、小林健道、小林運美、古平守、小宮山忠雄、小山克二、斉藤佐五兵衛、滝沢中、玉井帯力、塚田博美、富岡秀、南条泰三、箱山貴太郎、橋詰六郎、半田静定、前島雄之助、前田義一、松山篤、宮原平一、八木正風、柳沢晋一郎、柳沢信義、依田赳夫

各期の集会の後本部宛に報告を願います。

# 母校へ記念品

## 四十四回生募金中

私達四十四回卒業生が希望に胸をはずませ、桜のほころび始めた古城の門をくぐったのは、三十有余年前の昭和十六年四月でした。その頃は戦争のさなかであり、あるものは陸幼・海兵・予科練・特幹等へと進み、多くの友は菅平の開墾、木曾・中土の土木作業、あるいはまた城南製作所・日本無線などで油にまみれた少年の日々が昨日のように思い出されます。

昭和二十年三月多くの友は戦時特別措置で四年で母校を卒業しましたが、終戦を迎え社会の大きな変り方にとまどい、うれえ時には己れの進むべき道まで見失うほどであったことを思い出します。

「中学ででから三十年……」本年は卒業三十年を迎えます。私達はようやく社会の中堅者と呼ばれるところまでまいりました。そこで昨年の同年会で母校へ卒業三十周年記念として記念品を贈呈しようとの話が出され参会者全員の賛同を得て、昨年末よりその募金を行っています。また今年一月二日の世話人会ならびに同年会では記念品として同年の峰村昭三君の五十号ほどの絵を贈ることに決定し同君の快諾も得ました。なお募金に余裕がでましたら同年諸氏の不幸の場合などの見舞金にも使うことが承認されました。

現在まだ募金の目標額に達していませんので、学友諸兄のご協力を心からお願いします。（四十四回四卒同年会事務局柳沢宏記）

## 第二十七回生

### 祝賀会開催

同級生の柳沢文秋君が藍綬褒章と文部大臣表彰を受けられたので鈴木俊、安田勇、志摩修吾、山田太郎、笠原義人、工藤巌、成沢二三男、小管貞男、幹事西沢惣一郎が発起人となり、昭和四十九年十二月五日午後五時より市内万花荘において、受章祝賀会を行なった。当日は今度上田市教育委員に志摩修吾君が選任されたので、その祝賀も兼ねることになった。

## 入学式珍事

五十年四月三日挙行された上田高等学校入学式では訓辞を述べたのが柳沢恒夫校長、祝辞を述べたのが柳沢文秋同窓会長、柳沢理一郎PTA会長で、宣誓をしたのが柳沢玲一郎君で、四人同姓は珍事。

## 幹事会名簿

上田高等学校同窓会には理事会の他に、各期代表者による幹事会があるが、幹事は各期より選任された方方である。五十年三月現在の名簿である。

### 幹事会

7回　柳沢光二　8回　細川三郎
9回　小林孝右衛門　11回　欠員
12回　羽田武邦　13回　依田誠
14回　細田延一郎　村山兼人
15回　堀辺義雄
16回　横関正中　上野高寛
17回　佐藤一　関計
18回　伴一
19回　高柳厚　三宅正人
20回　水沢道男　和田晋
21回　山浦厚　山口定次郎
22回　遠藤憲三　滝沢信男
23回　滝沢武夫　滝沢万二
24回　斎藤佐五兵衛　箱山貴太郎
25回　井沢喜三　倉島孝一
26回　久保田義雄　長尾秀次
27回　大塚貞通　志摩修吾
28回　新保富治　中山健三
29回　工藤林之助　半田栄一
30回　塚田今朝則　永井大二
31回　松高三男　山寺豊一
32回　井出忠雄　若林正五
33回　土屋敦博　丸山一也
34回　村山和夫
35回　荒木豊治　木村利喜雄
36回　関隣　田中豊雄　田口玲
37回　荻久保慶二
38回　穂谷潔　宮下力
39回　小林睦男　山極正之
40回　尾島正吉　小山弥吉
41回　田子檀
42回　荒木伝久　保刈定美
43回　箱山一生　宮入広司
44回　阪本典弥　林六郎
44回　北村辰雄　柳沢宏
45回　今井邦夫　高木精一
46回　沓掛陽一　斉藤三雄
47回　清水周　町田吉司
48回　加藤精二　49回　中村周
50回　中村尚義　51回　桜井重治
52回　倉島陽一　宮下行一
53回　名取守二郎　小池宏　瀬下司
54回　甘利隆弘
55回　大井信一　後藤圭介
56回　丸山正一
57回　田辺昭夫　松尾公夫　深町浩一
58回　竜野彰雄　成沢勇雄
60回　上村克彦　日置勇二
61回　飯島俊勝　松尾弘
62回　島田基正　瀬川昌光
63回　石井和夫　柳町長文
64回　大久保義仁　増田幸一
65回　宮原敏明
66回　芦田良一　清水通男

### 定事制

50回　薄井武　51回　水野正四
52回　五味一幸
53回　柴崎光一　中沢勉
54回　小池久雄
55回　小林弓右司　本田哲夫
56回　山崎正樹　川上輝夫
57回　小枝千祐
58回　荻野幹雄　成沢勇雄
59回　上原久二
60回　久保田寿郎
61回　島田基正　瀬川昌光